

令和 7 年度厚生労働省障害者地域生活支援体制整備事業  
「オンライン研修」

## 事例の概要

事例 1 : 大分県宇佐市

事例 2 : 大阪府

事例 3 : 高知県

事例 4 : 沖縄県

事例 5 : 新潟県

# 【事例 1】 大分県

## ○アドバイザーによる積極的な市町村へのアウトリーチ（「おせっかい型」巡回訪問）

- ・県自立支援協議会に設置した「市町村担当者会議」が県内の市町村自立支援協議会との接続口となり、助言や研修等を通じて市町村支援を行う体制を構築。
- ・基幹設置や拠点等整備に苦戦する市町村の状況を踏まえ、「おせっかい型」市町村巡回訪問を実施。
- ・宇佐市において基幹設置、地域生活支援拠点等の機能強化、協議会の体制の見直しを一体的に推進。

### 管内市町村の状況

- 市町村数：18
- ・基幹相談支援センター  
12市町村に設置
- ・地域生活支援拠点等  
18市町村に整備
- ・市町村自立支援協議会  
全市町村に設置  
(17協議会：うち共同設置  
1協議会)

### 市町村支援のポイント

離島もあるが全18市町村でフォローしやすい地域的メリットを活かし、**アドバイザーが手厚く継続的な支援（市町村を巡回訪問）**を実施している。

### 大分県自立支援協議会

- 設置開始年：平成19年3月
- 運営（事務局体制）：大分県障害福祉課
- 概要・特徴：
  - ＜部会の構成＞  
相談支援・研修部会、地域移行専門部会、こども部会を設置（別添資料参照）
  - ＜市町村協議会との連携＞
    - ・県自立支援協議会に設置した「市町村担当者会議」が県内の市町村自立支援協議会との接続口となり、「相談支援・研修部会」において把握した情報に基づき、助言や研修等を通じて支援を行う体制を構築している。

### アドバイザー

- ・派遣型：5名配置
- ・平成29年頃から拠点等の整備が進む中、機能充実に向けてどのように動いていくか議論となり、令和4年度から基幹設置の支援とともに拠点機能を検証する観点から、アドバイザーを活用しながら、積極的に市町村支援に取り組んでいる。
- ・アドバイザー派遣は、従来、市町村からの申請に基づき出向く形であった。市町村からの申請型にすると熱心な地域は手を挙げるが、設置・整備に苦戦している地域は申し込みがない傾向があることから、自立支援協議会で協議し、「おせっかい型の市町村訪問」を提案、令和3年頃から、自立支援協議会の市町村担当者会議を通じてアナウンスした後にアドバイザーが訪問する形となっている。

# 【大分県】基幹相談支援センターの設置に向けた市町村支援

|         |                                                                                                                       |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 全18市町村（令和6年度～）                                                                                                        |
| 支援のきっかけ | ・R6.4月時点では18市町村中5市町のみ設置であり、基幹設置を検討する市町村においてはどの様に設置を進めていけば良いのか相談する所が無く、また基幹設置をしている市町村においても模索している状態が続いており、相談できる場所が無かった。 |

## 都道府県の取組

|                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                      |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和6年度               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度はアドバイザー及び市町村と連携し以下のプロセスで基幹相談支援センターの設置に向けた検討を実施</li> <li>STEP 1. 市町村に対し実態調査の実施。</li> <li>STEP 2. 市町村自立支援協議会担当者会議で情報共有・グループワークによる各市町村の取組を共有</li> <li>STEP 3. アドバイザー派遣による市町村の個別支援</li> <li>STEP 4. 市町村自立支援協議会担当者会議で情報共有・グループワークによる各市町村の取組を共有</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度に基幹設置の意向があった7自治体では、「どの様に基幹のかたちを作り上げていくか」が課題であったが、STEP3のアドバイザー派遣が有効な支援につながった。</li> <li>・7自治体の基幹設置のプロセス状況が、未設置自治体の意識変容に繋がっている。</li> </ul> |
| 令和7年度               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・R7.4月時点では新たに7市町で基幹の設置が完了し、18市町村中12市町が設置済み。</li> <li>・令和7年度もアドバイザー派遣による個別支援と5月、9月、2月に市町村基幹勉強会等を実施し、県全体での連携強化を実施する予定。</li> </ul>                                                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村協議会担当者会議を2回（行政職員のみ）</li> <li>・基幹市町村連携会議を2回（行政職員と基幹職員）</li> <li>・基幹・拠点市町村連携会議を1回（行政職員と基幹職員）</li> </ul>                                     |
| 取組の工夫点<br>今後に向けての取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「市町村自立支援協議会の開催実績及び開催計画等調べ」を毎年度実施し、市町村の取組状況の実態把握から、意見交換・研修会等の顔の見える場の創出、アドバイザー派遣へと繋げる等、支援ツールを一体的に活用・運用している。</li> <li>・令和7年度は、未設置自治体も含め、悩みを話し合える場の提供等を目的として、個別に支援するアドバイザー派遣と自治体間が連携する場の提供を進めている。</li> </ul> <p>※4つのSTEPによる市町村支援の仕組みは、拠点等の整備、自立支援協議会の活性化についても同様。</p> |                                                                                                                                                                                      |

# 【大分県】基幹相談支援センターの設置等に向けた市町村支援

|         |                                                                                                                                                                                            |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 宇佐市（令和6年度～）                                                                                                                                                                                |
| 支援のきっかけ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年から、基幹相談支援センターの設置に向けて、他市町村の基幹等の視察等を通して、基幹のあり方や設置方法について、市内の3つの委託相談事業所と市と一緒に協議を重ねてきた。</li> <li>・ 令和6年度の県のアドバイザー派遣を契機に基幹設置に向けた取組を加速した。</li> </ul> |

## 宇佐市の取組

- 令和6年度
- ・ 視察等である程度明らかになった課題等を踏まえ、令和6年度は、県のアドバイザーの支援を受け、市と3つの委託相談支援事業所が基幹設置に向けて検討
  - ・ 基幹の人員配置、基幹設置に伴う地域生活拠点等の体制をどのように組み立てるか等、2か月に1回のペースから徐々に間隔を詰めながら協議を継続
  - ・ 令和7年3月に2事業所の共同により、基幹相談支援センターを設置
  - ・ 地域生活支援拠点等・ネットワーク運営推進事業の中の拠点コーディネーター事業を活用し、基幹相談支援センター（2機関共同受託）の中の1事業所に拠点コーディネーターを令和7年度より配置
- ・ 令和3年度より運用を開始した宇佐市地域生活支援拠点等については、制度の概要と現状を共有することを目的に市内の地域生活支援拠点連携担当者や障がい福祉サービス事業所、社協、北部保健所、医療機関、教育機関、市関係部署を対象に、県のアドバイザーによる地域生活支援拠点等についての研修会を開催

## 現在の状況・ 取組の工夫点・ 今後に向けての 取組

- ・ 基幹相談支援センターが始動した4月から、市の専門職2名と総括1名が月1回、順番で各基幹、委託を巡回訪問し、主任相談支援専門員、機能強化担当職員、部会担当職員と情報交換を行っている。
- ・ さらに月2回、障害福祉サービス事業所職員も加えるかたちで「共創ミーティング」（協議会に設置）を開催し、広く関係者と情報交換し、横のつながりを強化するための場を設けている。

## 宇佐市

人口：約52,000人

基幹相談支援センター：

令和7年3月設置

委託（2機関共同）

- ①基幹相談支援センター「アーチ」
- ②相談支援事業所「ぬくもり暖」

## 支援による効果・変化

県のアドバイザー派遣（STEP3）を活用することで、基幹設置に向けた動きがスムーズに進んだ。市協議会「相談支援部会」において、市内の相談支援事業所から「基幹設置によって、相談しやすくなった」との評価を得ている。

# 【大分県】（自立支援）協議会の活性化に向けた市町村支援

|         |                                                                                     |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 宇佐市（令和6年度）                                                                          |
| 支援のきっかけ | ・ 令和6年度の基幹相談支援センター設置に向けた取組と同時に、市の相談支援体制の強化を目指し、市自立支援協議会の体制の見直しを県のアドバイザーの支援のもとに実施した。 |

## 宇佐市の取組

令和6年度

- ・ 宇佐市は、令和3年度以降、機能強化事業の中で、委託相談支援事業所が協議会の「相談支援部会」の事務局や相談支援専門員の人材育成の役割担うなど、官民協働の協議会づくりの風土を構築
- ・ 基幹相談支援センター設置に向けた委託相談支援事業所との協議の中で、自立支援協議会の会議の内容の見直しを行い、より基幹相談支援センターと市が連携を図れるよう、顔の見える関係の構築を目指し、協議会に新たに「**基幹相談連絡会**」や「**共創ミーティング**」「**多領域連携部会**」等を設置



令和7年度

- ・ 令和7年度の協議会のスタートにあたり、協議会に関わる人が同じ方向を向いて取り組みたいという思いから、協議会の構成員、地域の障害のある方、県下の委託相談、基幹、市町村担当者、県職員等に参加を呼びかけ「**キックオフミーティング**」を開催
- ・ 市長に冒頭の挨拶をいただくことで、担当部・課長が異動しても歩みを止めない決意の共有の場とするとともに、他市町村からの参加によって取組の横展開を企図

現在の状況・  
取組の工夫点・  
今後に向けての  
取組

- ・ 協議会の「相談支援部会」や令和7年度に新たに設置した「**基幹相談連絡会議**」「**多領域連携部会**」等の事務局は基幹や委託、行政が共同で運営しており、話し合った内容を協議会の取組に反映されるとともに、部会で出た意見が、基幹や拠点等の運営につながっている。

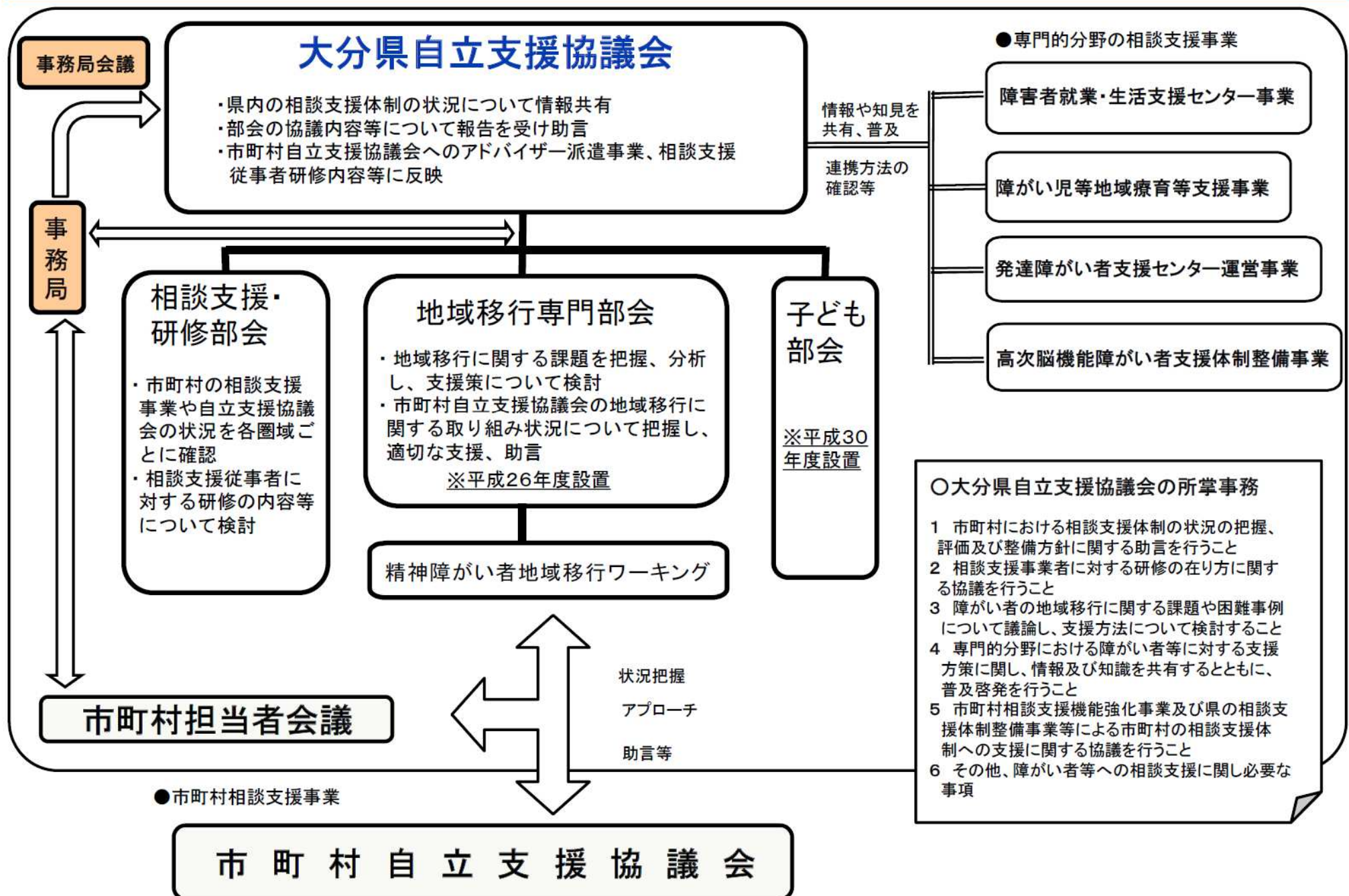
## 宇佐市自立支援協議会

- ・ 令和7年4月の基幹相談支援センター設置を機に、「運営会議（協議会のエンジン）」を支える頭脳として「**基幹相談連絡会議**」を新たに設置
- ・ そのほか新たに「**多領域連携部会**」「**地域生活支援部会**」等を設置

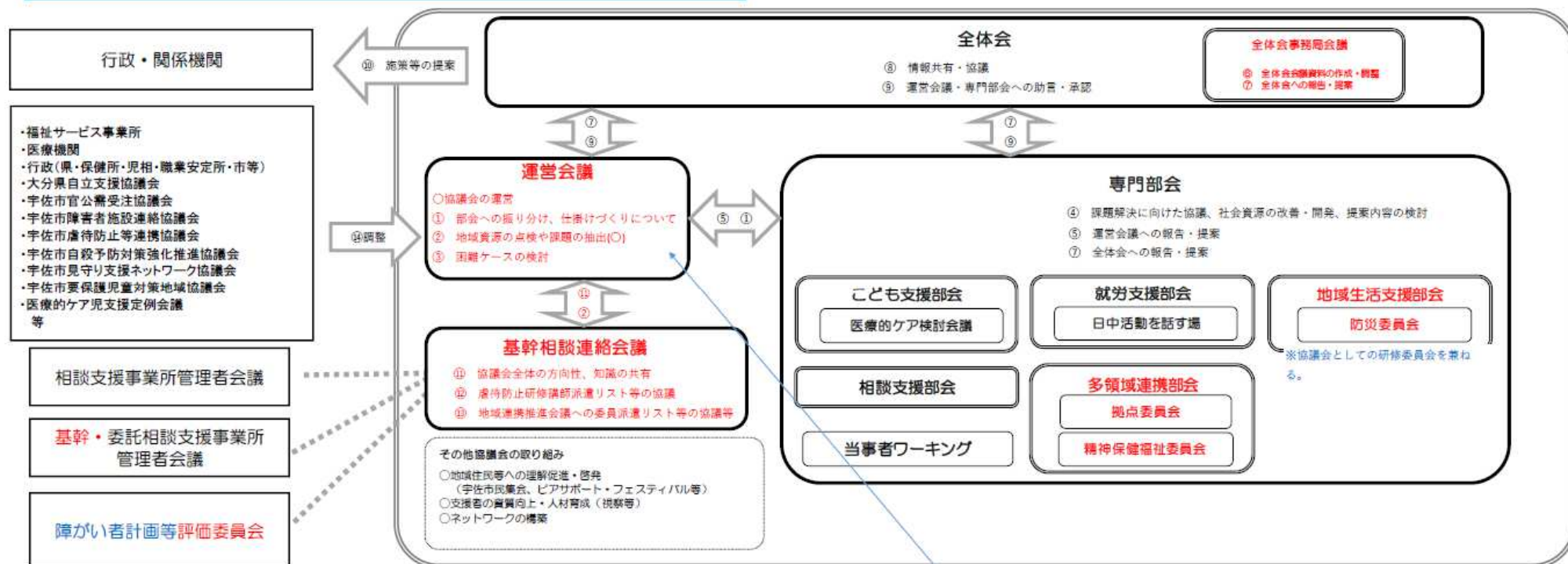
## 支援による効果・変化

県のアドバイザー派遣（STEP 3）を活用し、基幹相談支援センターの設置に向けた取組、地域生活支援拠点等の機能強化、協議会の体制の見直しを一体的に推進することで、地域づくりに向けた機運醸成につながっている。

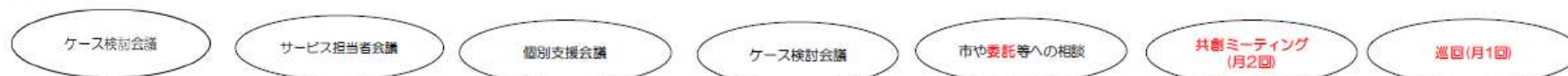
# 大分県自立支援協議会について



## ④協議会への運営への関与を通じた地域づくり



宇佐市自立支援協議会は、サービス担当者会議や個別支援会議等から全体会までのすべてのプロセスを指しています。  
つまり、このプロセスに関わっているすべての方が『協議会の担い手』です。



## 【事例2】 大阪府

### ○府自立支援協議会の市町村支援の基本方針に基づき取組を展開

- ・地域自立支援協議会情報交換会を定期的に開催し、府内市町村の自立支援協議会担当者向けに研修会の実施や好事例の共有、意見交換等を実施。
- ・**アドバイザー派遣事業**を核として地域自立支援協議会の課題を抽出・支援を実施する仕組みを構築。
- ・市町村アンケート（毎年度実施）等から市町村が抱える課題を洗い出し、「**アドバイザー会議**」で支援対象・方法等を検討。府の自立支援協議会を通じてアドバイザーを派遣。
- ・市町村の要請に基づくアドバイザー派遣も合わせて実施。

### 管内市町村の状況

- 市町村数：43
- ・基幹相談支援センター  
40市町村に設置
- ・地域生活支援拠点等  
42市町村に整備
- ・市町村自立支援協議会  
43市町村に設置

### 大阪府自立支援協議会

- 設置開始年：平成24年
- 運営（事務局体制）：大阪府福祉部障がい福祉室障がい福祉企画課
- 概要・特徴：
  - ＜部会の構成＞  
「ケアマネジメント推進部会」「高次脳機能障がい相談支援体制連携調整部会」「就労支援部会」「障がい者虐待防止推進部会」「地域支援推進部会」「発達障がい児者支援体制整備検討部会」「医療的ケアを要する重症心身障がい児者等支援部会」
  - ＜市町村協議会との連携＞  
・地域自立支援協議会情報交換会を定期的に開催し、府内市町村の自立支援協議会担当者向けに研修会の実施や好事例の共有、意見交換等を行っている。

### 市町村支援のポイント

平成29年度から**地域自立支援協議会**を核とした**地域ネットワークの構築**を軸に地域自立支援協議会が抱える課題の解決に向けて、アドバイザーを派遣して支援を実施している。

### アドバイザー

- ・派遣型：8名配置（専門性・得意分野を踏まえ、課題に応じて府が振り分け）
- ・**アドバイザー派遣事業**を核として、地域自立支援協議会の課題を抽出・支援の仕組みを構築している。
- ・毎年度実施している市町村アンケート等から市町村が抱える課題を洗い出し、「**アドバイザー会議**」で支援対象・方法等を検討、府の自立支援協議会を通じて派遣している。また、市町村の要請に基づくアドバイザー派遣も合わせて実施している。

# 【大阪府】基幹相談支援センターの設置に向けた市町村支援

|         |                                                                                                                                                               |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | A町（令和6年度）                                                                                                                                                     |
| 支援のきっかけ | 大阪府の基幹相談支援センター設置率は令和6年4月時点で86%であった。未設置のA町では、行政と委託相談、指定特定事業所との間で役割分担が不明確であるとともに、行政とそれら事業所との間で設置に向けた検討の機会が整っておらず、両者が連携した支援を実施する体制に至っていない状況があることから、A町から府へ相談があった。 |

| 都道府県の取組 |                                                                                                                                                                      | 市町村の取組                                                                                                                                                     | A町の概要                                                                                                                                          |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和6年度   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町からの相談を受けアドバイザーを派遣。相談支援体制（三層構造）の説明、委託相談と基幹相談支援センターの役割を明確化</li> </ul>                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基幹相談支援センターの設置に向けて府に相談</li> </ul>                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 府内では比較的、小規模な自治体</li> <li>・ 相談支援事業所：3か所（うち2か所が委託相談）</li> <li>・ 令和8年度の基幹相談支援センター設置を目指し町内で検討中</li> </ul> |
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町の相談支援あり方検討会にアドバイザーが月1回参加（府職員も同行）</li> <li>・ 基幹相談支援センターの役割と必要性をアドバイザーから説明するとともに、設置に向けたスケジュールや論点整理、検討すべき事項等について助言</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政と相談支援事業所が参加する相談支援あり方検討会を開催し、①各事業所が担う役割の検討、②基町全体の課題について相談支援事業所と意見交換（←基幹相談支援センター設置にかかる仕様書案の検討に必要となるため）</li> </ul> |                                                                                                                                                |

|                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現在の状況・<br>取組の工夫点・<br>今後に向けての<br>取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アドバイザーにより、三層構造の意味、基幹相談支援センターの役割、継続的な支援の体制のあり方等についての説明や整理等の支援を実施。これまでの支援によって、現時点においては、各事業所が抱える悩み、行政が抱える悩みについて一旦、交通整理ができた段階にある。今後は、課題に対する双方の考え方等を踏まえつつ、一緒に考えていく機運を醸成していき、進捗状況等を確認した上で、アドバイザーから具体的なプランニングについて提案する方向で検討中。</li> <li>・ 基幹相談支援センターの設置に向けた動きが進む中、特に設置に向けた初動段階で苦戦している自治体に対して、議論のきっかけをつくることが重要である。直面している課題全体を俯瞰し、自治体内における官民の関係者の仲介者として府及びアドバイザーによる地道なサポートが不可欠である。</li> </ul> |
|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

# 【大阪府】地域生活支援拠点等の整備に向けた市町村支援

|         |                                                                                                                                                                                                                     |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 全43市町村（平成28年度～）                                                                                                                                                                                                     |
| 支援のきっかけ | <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村からは、「府は、何をもって（拠点等を）整備したと捉えているのか」「どのような機能が必要とするのかを、いかなる根拠に基づいて判断すれば良いのか分かりづらい」「（拠点等の）整備された姿をイメージすることが難しい」といった声が挙がっていた。それらを踏まえ、府として、地域生活支援拠点等の整備の推進・強化を図る必要があった。</li> </ul> |

| 都道府県の取組 |                                                                                                                                                                                                                              | 拠点整備・運用状況の検証                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成28年度～ | <ul style="list-style-type: none"> <li>府自立支援協議会の地域支援推進部会に設置している「基盤整備ワーキンググループ」において市町村の地域生活支援拠点等の整備促進に向け議論。</li> </ul>                                                                                                        | <p><b>【検証に向けた支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>府自立支援協議会の地域支援推進部会に設置している「基盤整備促進WG」において、地域生活支援拠点等の機能の充実及び運用状況の検証・検討の推進に向けて議論。</li> <li>各市町村の拠点等の運用状況の検証・検討が進められるよう、市町村アンケートにより把握した検討状況を府ホームページで公表。</li> </ul> <p>※設置42市町村中35市町村が実施<br/>うち緊急時の受入実績：14市町村</p> |
| 平成28年度  | <ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時の受入機能を備えるところから支援に着手。ワーキングで作成した報告書「地域生活支援拠点等の整備促進に向けて」を市町村へ発出。当面整備すべき機能として24時間の受付体制や緊急時の受入れを提示。</li> </ul>                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 令和元年度   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワーキングで、拠点等に関する府の考え方を示した「地域生活支援拠点等の整備促進に向けて」を作成し、市町村へ発出。まず取り組むべきこととして、①緊急時の定義づけ、②登録制の導入、③緊急時の体制整備に向けたネットワークの構築を提案。</li> </ul>                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 令和3年度～  | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域生活支援拠点等の担当の市町村と拠点を担う基幹相談センターや事業所等を対象に、拠点の理解促進や、自治体ごとの情報共有、相談しやすい関係づくりを目的に意見交換会を実施。自治体による発表やグループワークを実施。</li> <li>令和6年度、拠点等の各種機能の整備状況や地域生活支援拠点等コーディネーター、拠点の運用状況の検証等について議論。</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 今後に向けての取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年4月1日時点で、42市町村が整備済となり、今後、拠点の各種機能を充実させていく段階。</li> <li>意見交換会（自由参加）は、やる気があるところは集まるが、もう少し積極的に参加を促す取組も必要がある（令和6年度の参加市町村は32）。未参加の自治体が支援のアプローチの対象にもなる。</li> <li>基盤整備促進WGは、地域移行を促進していくための基盤整備促進という大きな枠組みで議論しており、検討項目の一つとして拠点の整備がある。検証を進める目的で府のホームページに内容を公表しており、今後、こうしたツールを活用し、より一層、市町村の取組を推進させる方法を検討しているところ。</li> </ul> |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

# 【大阪府】（自立支援）協議会の活性化に向けた市町村支援

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | A市（令和6年度）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 支援のきっかけ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・府自立支援協議会では平成29年度から各地域自立支援協議会の抱える課題の解決に向けアドバイザーを派遣し支援する取組を実施。</li> <li>・A市では、自立支援協議会の効果的な運営、特に協議会の役割である地域課題の抽出や解決方法の検討について不十分であり、基幹相談支援センターを委託するにあたり、その役割を整理し、明確にする必要があった。</li> <li>・相談支援体制における三層構造の役割や事業内容、行政と委託事業者の間における役割分担の明確化、円滑かつ効率的な体制構築をどのように行えば良いか等、A市から府へ相談があった。</li> </ul> |

|      | 都道府県の取組                                                                                                                                                                                                                                        | 市町村の取組                                                                                                                                                 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和6年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援協議会の運営状況や相談支援体制等について、当該市へヒアリングを実施。</li> <li>・アドバイザーを派遣し、行政と基幹相談支援センター受託事業所の役割を各関係機関と共有したうえで、委託相談支援事業所が抱える課題の聞き取りを実施。</li> <li>・個別課題の事例検討、地域課題の抽出プロセスの実践、各委託相談支援事業所からの事例をアドバイザーの助言により検討。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の相談支援体制等に関して、市担当課（＝基幹センターを運営する課）と委託相談支援事業所を含めて、現状把握と事業検証を実施。</li> <li>・相談支援体制における三層構造の役割分担の整理、確認。</li> </ul> |

|                        |                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現在の状況・取組の工夫点・今後に向けての取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度も引き続き月1回の訪問による支援を継続している。相談支援体制の現状を検証し、現在、課題抽出を行いながら、市、基幹、委託事業所、主任相談支援専門員の役割を整理しているところ。</li> <li>・今後の役割分担や協議会の運営方法についても、引き続き、体制整備と円滑な運営につなげていく予定である。</li> </ul> |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A市                                                                                                                                                                              |
| 人口：約77,000人<br>基幹相談支援センター：設置<br>地域生活支援拠点：整備                                                                                                                                     |
| 支援による効果・変化                                                                                                                                                                      |
| <p>以前は、一つひとつの事例検討に時間がかかっていたが、アドバイザーの指導で、方法・手順等が整理され、検討に要する時間が半分程度になり効率化できた。</p> <p>また、委託により基幹相談支援センターを設置するにあたり、委託相談との役割分担を明確にする必要があったが、アドバイザーの支援により、設置にむけた準備がうまく進みつつある。（A市）</p> |

# 大阪府障がい者自立支援協議会（親会）と各部会の機能分担

【大阪府全域における支援体制の整備】

大阪府障がい者自立支援協議会（親会）

方 向 性

【地域生活を支えるサービス基盤の整備】

地域支援推進部会（基盤整備WG）

【地域生活を支える権利擁護】

ケアマネジメント推進部会

障がい者虐待防止推進部会

医療的ケアを要する重症心身障がい児者等支援部会

【就労等を通じた自立支援】

就労支援部会

政策課題への対応

連絡調整

高次脳機能障がい相談支援体制  
連携調整部会

発達障がい児者支援体制整備検討  
部会

地域支援推進部会  
（精神障がい者地域移行推進WG）

障がい種別ごとの対応

# 【事例 3】 高知県

## ○行政（県担当部署）による積極的な市町村へのアウトリーチ

- ・ 県自立支援協議会「相談支援体制づくり部会」が市町村自立支援協議会との接続口となり課題共有。
- ・ 県担当部署の適格な現状分析のもと「相談支援アドバイザー事業」を通じて、市町村に対する個別支援を実施。アドバイザーは各市町村の自立支援協議会に参加、「アドバイザー連絡会」（県担当者も参加）で情報共有。
- ・ 中土佐町、四万十町において、共同で地域生活支援拠点等の整備のあり方を検討。

## 管内市町村の状況

### ■市町村数：34

- ・ 基幹相談支援センター  
14市町村に設置
- ・ 地域生活支援拠点等  
14市町村に整備
- ・ 市町村自立支援協議会  
34市町村に設置

## 高知県自立支援協議会

### ■設置開始年：平成20年1月

### ■運営（事務局体制）：直営（事務局：高知県障害福祉課）

### ■概要・特徴：

#### <部会の構成>

相談支援体制づくり部会、人材育成部会、子ども支援部会、就労支援部会、強度行動障害支援部会（別添資料参照）

#### <市町村協議会との連携>

- ・ 県自立支援協議会の「相談支援体制づくり部会」が市町村自立支援協議会・専門部会との接続口となり、課題を共有し、広域的な整備を検討する。
- ・ 「相談支援体制づくり部会」の活動は「相談支援アドバイザー事業」を通じて、市町村に対する個別支援として具体化する。

## 市町村支援のポイント

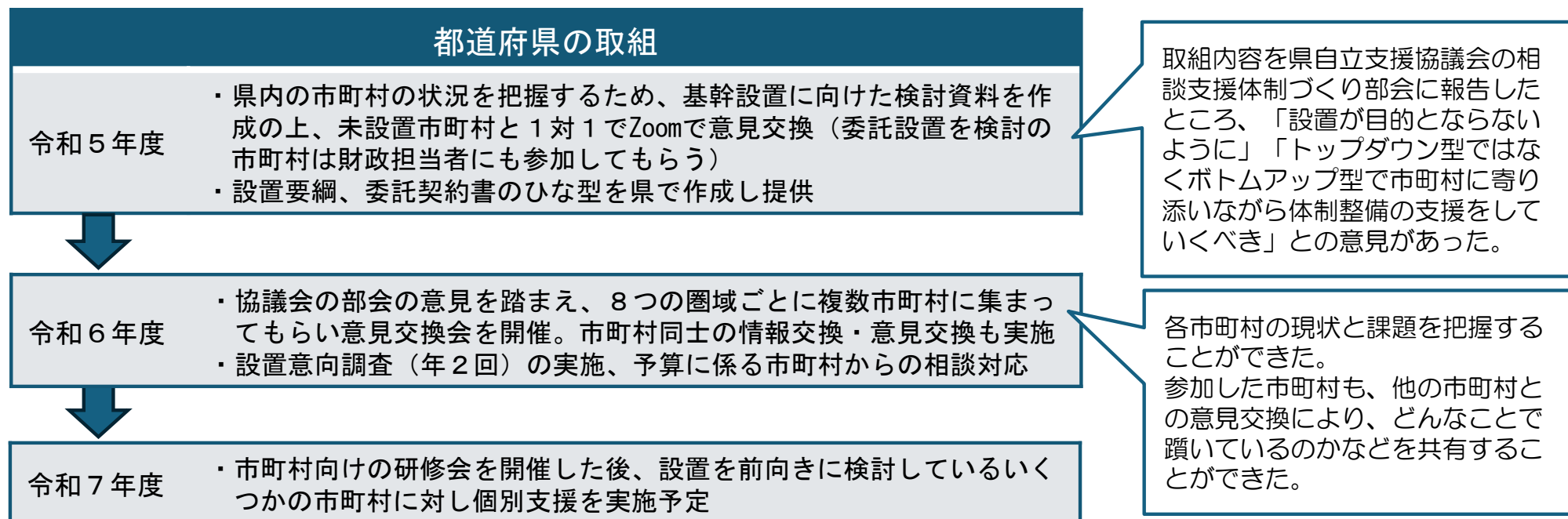
県障害福祉課が市町村へのアウトリーチを積極的に実施し、アドバイザー事業等による市町村支援につなげている。

## アドバイザー

- ・ 配置型を基本として派遣型運用も可能：7名配置
- ・ 県では「相談支援体制づくり部会」で市町村の協議会活性化を一つのテーマにしており、アドバイザーは、各市町村の自立支援協議会に参加し、協議会の活動状況に関する情報収集を行っている。
- ・ 収集した情報は、概ね3ヶ月に1回開催する「アドバイザー連絡会」（県の担当者も参加）で共有するとともに、県自立支援協議会の「相談支援体制づくり部会」においても共有される（メンバーはほぼ重複する）。

# 【高知県】基幹相談支援センターの設置に向けた市町村支援

|         |                                                                                                                                                                            |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 全34市町村（令和5年度～）                                                                                                                                                             |
| 支援のきっかけ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前障害福祉計画で県内全域での設置を目標としていたが県として取組が進んでいなかった。</li> <li>・未設置の市町村の中には、設置に向けた検討がされておらず、基幹相談支援センターの役割や必要性についての理解がされていない市町村もあった。</li> </ul> |



|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取組の工夫点・今後に向けての取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍＋人事異動により県の協議会等の活動が止まり、市町村の状況を把握できていなかったことや、基幹設置・拠点整備に向けた支援に当たって、現状把握が不十分のまま「法改正によって努力義務となったので整備を」といった形のアナウンスに止まっていた。そこで、市町村との意見交換会を開催することで、市町村（圏域）の現状と課題について聞き取りを行った。</li> <li>・市町村において具体的な検討ができるよう、検討資料や要綱等のひな形を県で作成するとともに、市町村における予算要求に際して、補助金の活用についての相談対応を適宜実施している。</li> <li>・基幹設置が完了している市町村については、県主催で連絡会を開催し、機能強化や情報共有を図ることを検討している。</li> <li>・相談支援の報酬制度や加算等の活用についても各市町村に情報提供をしていけるよう検討している。</li> </ul> |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

# 【高知県】地域生活支援拠点等の整備に向けた市町村支援

|         |                                                                                                                                                                                          |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 中土佐町、四万十町（令和6年度）                                                                                                                                                                         |
| 支援のきっかけ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材確保が困難であるという課題に対する方策について以前から相談支援事業所（中土佐町 1 か所、四万十町 2 か所）で情報交換・意見交換を行っていた。</li> <li>・「複数事業所の協働による機能強化加算」について勉強会をしてほしいとの相談が事業所から県にあった。</li> </ul> |

| 都道府県の取組                                                                                                           | 市町村の取組                                                                                                                                                                                    |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>R 7 年 2 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「複数事業所の協働による機能強化加算」の勉強会において、制度の概要や必要となる要件等を説明</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能強化加算を取るためには、前提として地域生活支援拠点の整備が必要であることを確認</li> </ul>                                                                                              |
| <p>R 7 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の拠点整備済市町村の体制情報の一覧を作成・提供</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を参考にしながら拠点整備の体制について相談支援事業所で案を作成</li> </ul>                                                                                                      |
| <p>R 7 年 4 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2 町による第 1 回検討会に参加。既整備自治体の要綱や各種様式を参考として提供</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 回検討会を開催</li> <li>・拠点整備の案をもとに意見交換</li> </ul>                                                                                                   |
| <p>R 7 年 6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2 町による第 2 回検討会に参加</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 2 回検討会を開催</li> <li>・障害福祉計画上で令和 8 年度末までの整備を目標として検討中。</li> </ul>                                                                                  |
| <p>取組の工夫点・今後に向けての取組</p>                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・未整備市町村において具体的なイメージを持ってもらうため、中土佐町・四万十町における検討プロセスを他市町村にも横展開することを検討している。</li> <li>・拠点整備が完了している市町村については、県主催で連絡会を開催し、機能強化や情報共有を図ることを検討している。</li> </ul> |

|                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>中土佐町</p> <p>人口：約 5, 2 0 0 人<br/>相談支援事業所：1 か所<br/>基幹相談支援センター：<br/>直営・単独設置</p>                                                                                                     |
| <p>四万十町</p> <p>人口：約 1 4, 0 0 0 人<br/>相談支援事業所：2 か所<br/>基幹相談支援センター：未設置</p>                                                                                                            |
| <p>支援による効果・変化</p> <p>2 町の協議の場を持つことができたことで、地域の相談支援事業所と設置に向けた具体的な検討を行うことができた。（中土佐町）<br/>県や相談支援事業所と一緒に協議することで現状の整理方法や今後必要となる論点（共同設置・単独設置、拠点登録等）が明確になった。第三者の立場から意見をもらうことができた。（四万十町）</p> |



# 高知県自立支援協議会及び専門部会について

資料 1  
R7. 2. 12

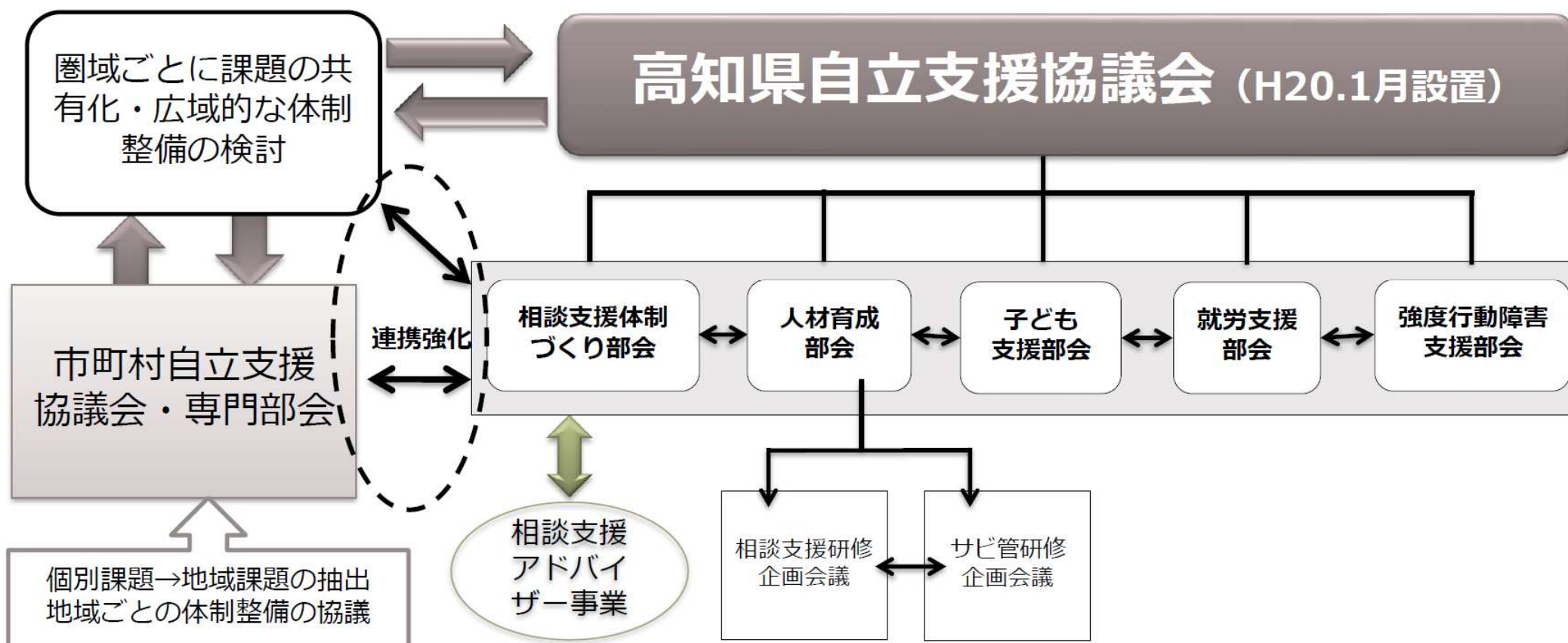
## ■高知県自立支援協議会（平成20年 1 月設置）

第 2 条 協議会は次に掲げる事項について協議を行う。

- (1) 市町村の相談支援体制の状況把握及び整備方策に関する事
- (2) 相談支援従事者の人材育成及び研修のあり方に関する事
- (3) 社会資源についての情報の共有並びに開発及び改善に関する事
- (4) その他協議会が必要と認める事項

- 自立支援協議会の活性化（県・市町村）
- 相談支援専門員・サービス管理責任者等の人材育成
- 障害児支援に関わる人材育成
- 一般就労の促進、就労継続支援事業所の工賃等の向上

重点事項



## 【事例 4】 沖縄県

### ○圏域アドバイザー、コラボレーター、圏域推進員が圏域単位で市町村を支援

- ・ 県内5圏域に「**圏域自立支援協議会**（事務局：福祉事務所）」を設置。
- ・ 県自立支援協議会に「**圏域アドバイザー連絡会議**」を設置。課題を共有し、圏域アドバイザー（北部、中部、南部）が圏域単位で市町村を訪問（島しょ部の圏域（宮古、八重山）もカバー）。
- ・ **西原町**（南部圏域）の基幹相談支援センターのあり方を検討（直営から委託に移行）。
- ・ 支援プロセスを通じて、コラボレーターを次期圏域アドバイザーとして育成。

#### 管内市町村の状況

■市町村数：41

- ・ 基幹相談支援センター  
26市町村に設置
- ・ 地域生活支援拠点等  
22市町村に整備
- ・ 市町村自立支援協議会  
35市町村に設置

#### 沖縄県自立支援協議会

■設置開始年：平成19年4月

■運営（事務局体制）：沖縄県生活福祉部障害福祉課

■概要・特徴：

＜部会の構成＞

**圏域アドバイザー連絡会議**、相談支援・人材育成部会、住まい・地域支援部会

＜市町村協議会との連携＞

- ・ 県自立支援協議会と圏域内の市町村自立支援協議会の接続口として、県内5圏域（北部、中部、南部、宮古、八重山）に、**圏域自立支援協議会**（事務局：福祉事務所）を設置している。
- ・ 事務局機能を発揮するため、**圏域アドバイザー、コラボレーター（アドバイザーの補佐）、圏域推進員**が福祉事務所と連携し、市町村の情報共有、課題の集約、部会議事事項の整理を行い、各部会の活動をサポートしている。

#### 市町村支援のポイント

**アドバイザーの人材育成の仕組み**を組み込んだ「圏域アドバイザー、コラボレーター、圏域推進員」の**3層の体制**により、圏域単位で離島・小規模市町村を支援している。

#### アドバイザー

- ・ **月1回開催する圏域アドバイザー連絡会議**において、圏域ごとの課題の共有や、県全体で協議すべき事項を整理する。また、市町村に直接入り、1年を通じて協議会、基幹、拠点に対する助言を行っている（宮古、八重山の離島圏域はアドバイザーが不在のため、3名のアドバイザーを派遣している）。
- ・ **コラボレーターは次期アドバイザー**であり、活動を通じて人材を養成する形になっている。
- ・ また、県の自立支援協議会の下に設置した圏域自立支援連絡会議にアドバイザーが配置され、福祉事務所と連携し会議の運営を行っている。アドバイザーの下に**推進員**を置き、**福祉事務所のサポートとアドバイザーの補佐**を行うことで圏域単位の会議の充実を図っている。

# 【沖縄県】基幹相談支援センターの設置等に向けた市町村支援

|         |                                                                             |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 全 4 1 市町村（令和 6 年度）                                                          |
| 支援のきっかけ | ・ 41市町村中15市町村が離島自治体であるため、基幹相談支援センターの設置及び地域生活支援拠点等の整備について、圏域単位の検討を促進する必要がある。 |

## 都道府県の取組

|         |                                                                                                                                                                                              |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和 6 年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国の予算等を活用した県主催の研修等の企画・実施</li> <li>①市町村職員向け地域生活支援拠点等整備・運営に係る研修（令和 6 年11月）</li> <li>②沖縄県基幹相談支援センター連絡会及び基幹相談支援センター設置に向けた意見交換会の実施（令和 7 年 2 月）</li> </ul> |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 基幹相談支援センター |                                                                                                                       | 地域生活支援拠点等                                          | 圏域単位の取組へ展開                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月        |                                                                                                                       | ・ 協議会ワーキングにおいて研修内容の検討                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県の研修会等を受けて、各圏域自立支援連絡会議の相談部会で、研修会を振り返り、圏域アドバイザーと圏域のリーダーが検討、調整し、取組の体制や進捗が芳しくない市町村に圏域アドバイザーが出向き、助言をする体制をとっている。</li> <li>※<b>圏域アドバイザー連絡会</b>を毎月開催（チームとして各地域の課題、支援のノウハウを共有）。⇒地域に求められるアドバイザー機能のメンテナンス。</li> </ul> |
| 11月        |                                                                                                                       | ・ 市町村向職員向け地域生活支援拠点等整備・運営に係る研修会開催（1日）               |                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 12月        | ・ 協議会ワーキングにおいて課題整理、連絡会内容の検討                                                                                           | ・ 研修時の質疑応答をQ & Aに整理                                |                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 1 月        | ・ アドバイザー連絡会議において課題整理、連絡会内容の検討                                                                                         | ・ 取組が進んでいる市町村に <b>拠点整備状況シート</b> の作成を依頼             |                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 2 月        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市町村アンケート実施（設置状況調査）</li> <li>・ 基幹相談支援センター連絡会・基幹相談支援センター設置に向けた意見交換会</li> </ul> | ・ 市町村アンケート実施（整備状況調査）                               |                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 3 月        | ・ 連絡会資料、アンケート結果を取りまとめて全市町村に展開                                                                                         | ・ 好事例集とQ&Aををまとめて <b>地域生活支援拠点に関する手引き</b> として全市町村に配布 |                                                                                                                                                                                                                                                      |

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取組の工夫点・今後に向けての取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県が収集した情報は整理し、取りまとめた上で、適宜、<b>全市町村にフィードバック</b>している。</li> <li>・ <b>全県を対象とした研修や各種事業の目的、意図を圏域単位の取組として引き継ぎ</b>、地域の実情、実態に応じた支援、圏域内・圏域間の連携を図りながら推進する体制となっている。</li> <li>・ 基幹相談支援センターが未設置、また、地域生活支援拠点等が未整備の市町村に対しては、引き続き、<b>制度や運営方法に関する助言等</b>、設置・整備に向けた<b>具体的な支援</b>を継続的に行っていく。</li> </ul> |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

# 【沖縄県】圏域自立支援連絡会議、圏域アドバイザーによる市町村支援

|         |                                                                                         |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 北部圏域（9市町村（1市8町村））                                                                       |
| 支援のきっかけ | ・ 北部圏域は、9市町村で離島が3つあり、名護市（人口6万人）は基幹を単独設置をしているが、人口の少ない離島も含めた8町村でどのように基幹を設置していくかが課題となっていた。 |

## 県・北部圏域の取組

- ・ 県が実施してきた基幹相談支援センター設置に向けた研修会において、未設置市町村が具体的なイメージを持つことができるよう、設置済み市町村の情報を提供。
- ・ 圏域アドバイザーが市町村自立支援協議会（相談部会）へ参加し、行政担当者、委託相談支援事業者と基幹相談支援センター設置に向け継続的に協議。

## 北部圏域8町村の取組

- ・ 複数町村（8町村）の関係者の協議を経て、8市町村が共同で複数事業所（3事業所）へ基幹相談支援センターに業務の委託を決定。
- ・ 令和7年4月、人口規模、相談支援専門員、主任相談支援専門員の配置状況を勘案し、**北部圏域8町村において単独契約・共同設置の形で基幹相談支援センターを設置。**

## 北部圏域

人口：約10万人  
9市町村（1市8町村）  
名護市は人口約6万人、  
8町村（離島3）は人口の少ない地域（人口：約3万9千人）

- ・ 国頭村 4,504人
- ・ 大宜味村 3,044人
- ・ 東村 1,752人
- ・ 今帰仁村 9,364人
- ・ 本部町 13,002人

<離島>

- ・ 伊江村 4,366人
- ・ 伊平屋村 1,213人
- ・ 伊是名村 1,308人

### <市町村自立支援協議会の活用>

- ・ 基幹相談支援センター設置、地域生活支援拠点等整備については、市町村自立支援協議会相談部会等で協議を続けてきた。
- ・ 人口規模の少ない町村部でもできることはなにか等、絶えず話題にすることによって、行政担当者、相談支援専門員の意識付けを行うことができた。

### <相談支援体制整備の強化>

- ・ また、市町村自立支援協議会「人材育成部会」では、基幹を中心に市町村と連携し、人材育成を実施（個別事例から地域づくりを検討）  
⇒「事例検討で行政と事業者がつながりやすくなっている」（市町村の声）

## 取組の工夫点・今後に向けての取組

- ・ **小規模市町村**の特徴として、障害福祉担当者が他の業務との**兼務が多く**、状況によっては障害福祉に関する事項が後回しになってしまうことがある。  
⇒そこで、**圏域アドバイザーが各町村を個別訪問**し、自立支援協議会（相談部会）に参加。国や県、他市町村の情報を提供するとともに、基幹相談支援センター設置に関する事項を検討議題に上げ、**協議の場において伴走的な支援を継続**していく。

# 【沖縄県】圏域自立支援連絡会議、圏域アドバイザーによる市町村支援

|         |                                                                                                                                                                                                                         |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 中部圏域（11市町村（3市3町5村））                                                                                                                                                                                                     |
| 支援のきっかけ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の市町村では、従来、委託相談の契約の中に自立支援協議会の運営を謳っている場合が多く、基幹相談支援センターの役割と委託相談の役割の相違が分かり難くなるとの懸念から設置の出足が遅かった。また、地域生活支援拠点等の整備については5つの機能を一体的に整備する必要があるとのイメージが強く、なかなか拠点の整備が進まない状況があった。</li> </ul> |

| 県・中部圏域の取組                                                                                                                                                                                                                                                           | 市町村の取組                                                                                                                                                                                                                | 中部圏域                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・県自立支援協議会「相談支援・人材育成部会」のケアマネワーキングにおいて市町村職員向けの新任者研修会を企画。</li> <li>⇒異動してきた担当職員を対象に、毎年6月～7月に開催。行政、基幹、委託相談の役割・機能等の理解促進。</li> <li>・「相談支援・人材育成部会」で年2回の相談支援専門員を対象とする研修会を実施。</li> <li>⇒相談支援専門員に対する適切なフォローアップとリーダー育成の体制の構築。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域連絡会議の発足にあわせて、各市町村の地域自立支援協議会において圏域連絡会議と同様の部会を設置。圏域と市町村が連動した包括的な支援体制の構築が進展。（H30年頃）</li> <li>・自立支援協議会の機能強化を支える基幹相談支援センターの設置が進む中、小規模市町村において人材の確保と体制整備が進まない状況（H1～H7）。</li> </ul> | <p>人口：約52万人<br/>11市町村（3市3町5村）<br/>3市で約36万人、圏域の7割を占める<br/>町村は、約4万人（読谷村）から約6千人（宜野座村）となっている</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域アドバイザーが圏域相談支援部会の開催や市町村巡回を通じて、拠点の整備状況の確認、拠点の概念と必要性を説明。地域の複数法人の共同企業体による基幹の受託方式等について紹介。</li> </ul>                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援専門員の定着率の悪さ（3年程度でリタイアするケースが多い）に対する危機感が、基幹設置の必要性の理解と意識転換の契機となる。</li> </ul>                                                                                                  |                                                                                              |

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取組の工夫点・今後に向けての取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援専門員の定着率に課題がある中、基幹未設置の市町村への支援をどのように進めていくかが課題である。また、設置済みの市町村では人材育成と世代交代が課題となる。</li> <li>⇒現在の委託相談の経験者（相談支援専門員）が基幹を引き継ぐことになるが、その際、委託相談の空洞化が懸念されることから、早急に2～3年の時間をかけて、委託相談の人材育成と定着のための仕組みづくり、また、そのための自立支援協議会事務局機能の強化を目指す。</li> </ul> |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

# 【沖縄県】圏域自立支援連絡会議、圏域アドバイザーによる市町村支援

|         |                                                                                                  |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 南部圏域（１６市町村（５市５町６村））                                                                              |
| 支援のきっかけ | ・南部圏域は、町村・地域が基幹設置や拠点整備について「何から着手するのがよいかかわからない」町村が多かった。情報の不足、行政、委託相談、計画相談それぞれの共通理解を図っていくかが課題であった。 |

## 県・南部圏域の取組

- ・県協議会、圏域連絡会から圏域内市町村に対して情報発信、説明会の実施、アドバイザーの巡回訪等、連続的な一連の支援を通じて、先駆的に取り組んでいる市町村の紹介、市町村間のネットワークづくりに向けた「繋ぎ」。

- ・行政が単独で決定し、スタートした基幹センターは、現場の計画相談員と上手く連携が取れないことが多い。  
⇒基幹相談支援センター・地域生活支援拠点を整備する前に市町村自立支援協議会で十分話し合うことの重要性について、市町村に継続的に提案。

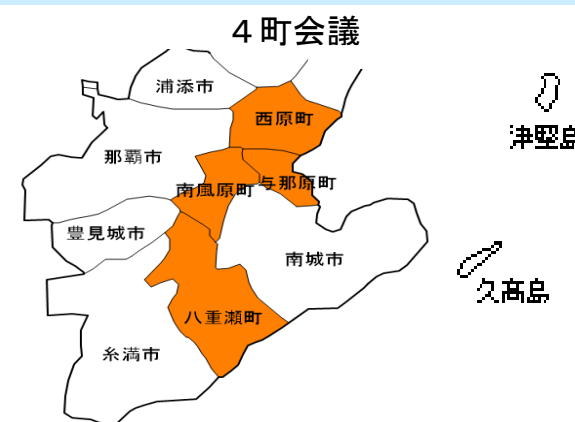
## 市町村の取組

- ・県自立支援協議会や圏域自立支援連絡会、全体会や部会を対面とオンライン開催によって、離島町村の参加が定着。
- ・粟国村が本島内の相談支援事業所に委託し、3年かけて自立支援協議会を立ち上げている。
- ・粟国村が伊江村を視察、交流を行った。
- ・西原町、南風原町、与那原町、八重瀬町が連携を深め、4町会議を定期的に開催。

- ・基幹相談支援センターは協議会の中で話し合い、直営から委託に代わっているところ、複数の事業所に委託をしたところ等がある。
- ・地域生活拠点部会を立ち上げ、モデル事例をあげて話し合っている市町村がある。

## 南部圏域

人口：約74万人  
16市町村（周辺離島町村を含め5市5町6村）  
本島内で9市町村、離島で7町村  
中核市的那覇市（人口約30万人）から渡名喜村（約330人）まで人口規模の開きが大きい圏域



## 取組の工夫点・今後に向けての取組

- ・町村には基幹相談支援センターを直営で設置するところが多く、行政が抱え込んでしまい、現場とうまく連携が取れない等の課題がある。
- ⇒自立協議会の中で「どんな相談支援体制をつくっていくか、そのために委託運営を含め、どのような基幹運営があり得るのか」等を議論し、計画的、段階的に取り組めるよう助言と伴走的支援を続けている（西原町を参照）。また、引き続き離島町村への支援のさらなる充実をめざす。

# 【沖縄県】基幹相談支援センターの設置等に向けた市町村支援

|         |                                                                                                                                                                                                |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 西原町（南部圏域）                                                                                                                                                                                      |
| 支援のきっかけ | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の相談支援体制の整備に関連して「指定特定相談支援事業所間一体的管理運営」の協定締結に係る実務上の課題等について、相談支援事業所と行政が議論する場が持てない状況にあった。また、自立支援推進協議会においては、地域課題の抽出から対応策の検討に向けた手順が十分に確立されていなかった。</li> </ul> |

| 西原町の取組 |                                                                                                                                                                                                                              |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 令和6年度～ | <ul style="list-style-type: none"> <li>指定特定相談支援事業所間一体的運営管理に関する理解を促すため、町と事業所で勉強会等を開催し利点の確認等を行う。</li> <li>地域へ行政と基幹相談が外向き、顔の見える関係をつくり、地域より声をだしやすい地域体制を整える。</li> <li>自立支援推進協議会の進め方の検討及び個々の課題から地域課題を抽出できる体制づくりの推進（今後）。</li> </ul> |

| 西原町自立支援協議会の活動                                                                                                                                                                                                                                        |  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>基幹相談支援センターと市町村（自立支援協議会事務局）が月1回定例会を持ち、自立支援協議会の各専門部会の運営に関する打ち合わせ、拠点についての役割分担の確認等を実施。</li> <li>地域拠点等の整備に関する理解促進のための説明会を実施。</li> <li>令和7年度より登録事業所を増やすため、相談部会で協議し、利用者登録、事業者登録までのステップの可視化とアプローチ方法について検討。</li> </ul> |  |

|                  |                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取組の工夫点・今後に向けての取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度から基幹運営を委託した相談支援事業所では人員体制を強化するとともに、委託相談との役割分担と連携、行政との協働による運営体制づくりを意識的に推進している。</li> <li>⇒基幹相談支援センターが中心となり自立支援協議会（各専門部会）で課題の抽出、対応策の検討・取り組むことにより、地域事業所の人材育成・スキルアップと連携を強化していく。</li> </ul> |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 西原町                                   |
|---------------------------------------|
| 人口：約35,000人                           |
| ■基幹相談支援センター：設置<br>平成31年（単独：令和7年度より委託） |
| ■地域生活支援拠点：整備<br>令和3年度（単独：面的整備）        |
| ■自立支援協議会：設置<br>平成24年度（単独：直営）          |

| 支援による効果・変化                                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>基幹相談支援センターのあり方の検討に当たって、圏域アドバイザーが町自立支援協議会の委員として参加することで、町直営の現状と課題の整理と委託の方向性について議論が進んだ。</p> <p>特に、基幹の委託に際して、町内事業所の主任相談支援専門員の知見を活用しながら基幹の事業を展開することが重要であるとの助言を受けることができた。</p> |

# 沖縄県障害者自立支援協議会

## 沖縄県自立支援協議会

(障害者総合支援法89の3①)

### 【役割】

- ① 地域の実態把握・情報共有
- ② 地域の支援体制のバックアップ
- ③ 全県的課題の把握・助言
- ④ 専門的分野の支援法策の普及
- ⑤ 人材育成

### 【構成員（19名）】

- ① 相談支援事業者（2）
- ② 障害福祉サービス事業者（1）
- ③ 保健・医療関係者（2）
- ④ 教育・雇用関係機関（4）
- ⑤ 障害者関係団体の代表者（2）
- ⑥ 障害者等及びその家族（2）
- ⑦ 市町村（2）
- ⑧ 学識経験者（1）
- ⑨ 知事が必要と認める者（3）（圏域アドバイザー）

### 圏域アドバイザー 連絡会議

（地域生活支援事業）

- アドバイザーは、各圏域の市町村や事業所等の支援、情報収集、調整等を行いつつ、各分会、ワーキング、関係機関等への関与を通じ、県全体の取り組みと地域との連携を図る

- 推進員を各圏域に配置し、圏域自立支援連絡会議の運営や市町村からの情報収集等により地域の支援体制の構築を図る

### 部会

※各分野ごとの課題等を協議、情報共有

(1) 相談支援・人材育成部会

(2) 療育・教育部会

(3) 医療的ケア児支援部会  
（「協議の場」）

(4) 就労支援部会

(5) 権利擁護部会  
（差別解消支援地域協議会）

(6) 住まい・地域支援部会

### ワーキング・グループ

※特定テーマを集中的に協議

- ① ケアマネワーキング
- ② 現任研ワーキング
- ③ 初任研ワーキング
- ④ サビ管ワーキング
- ⑤ 主任研ワーキング
- ⑥ 強度行動障害ワーキング
- ⑦ ピアサポートワーキング
- ⑧ 離島支援ワーキング
- ⑨ 障害児移行支援ワーキング
- ⑩ 医療的ケア児コーディネーターワーキング
- ⑪ 就労支援ワーキング
- ⑫ 虐待防止ワーキング
- ⑬ 合理的配慮ワーキング
- ⑭ 地域移行・定着ワーキング

## 各圏域自立支援連絡会議

（事務局：各圏域福祉事務所）

※各圏域ごとの課題等を協議、情報共有

### 部会

(1) 相談部会

（北部、中部、南部、宮古、八重山）

(2) 療育・教育部会

（北部、中部、南部、宮古、八重山）

(3) 就労部会

（北部、中部、南部、宮古、八重山）

(4) 住まい・地域支援部会

（北部、中部、南部、宮古、八重山）

### 【関係する協議会・機関等（抜粋）】

○ 沖縄県障害者施策推進協議会

（障害者基本法36①）

○ 沖縄県発達障害者支援センター

（地域生活支援事業）

○ 障害者就業・生活支援センター

（地域生活支援事業※生活支援分）

○ 沖縄県居住支援協議会

（住宅セーフティーネット法51①）

○ 沖縄県精神障害者にも対応した地域  
包括ケアシステム構築推進連絡協議会

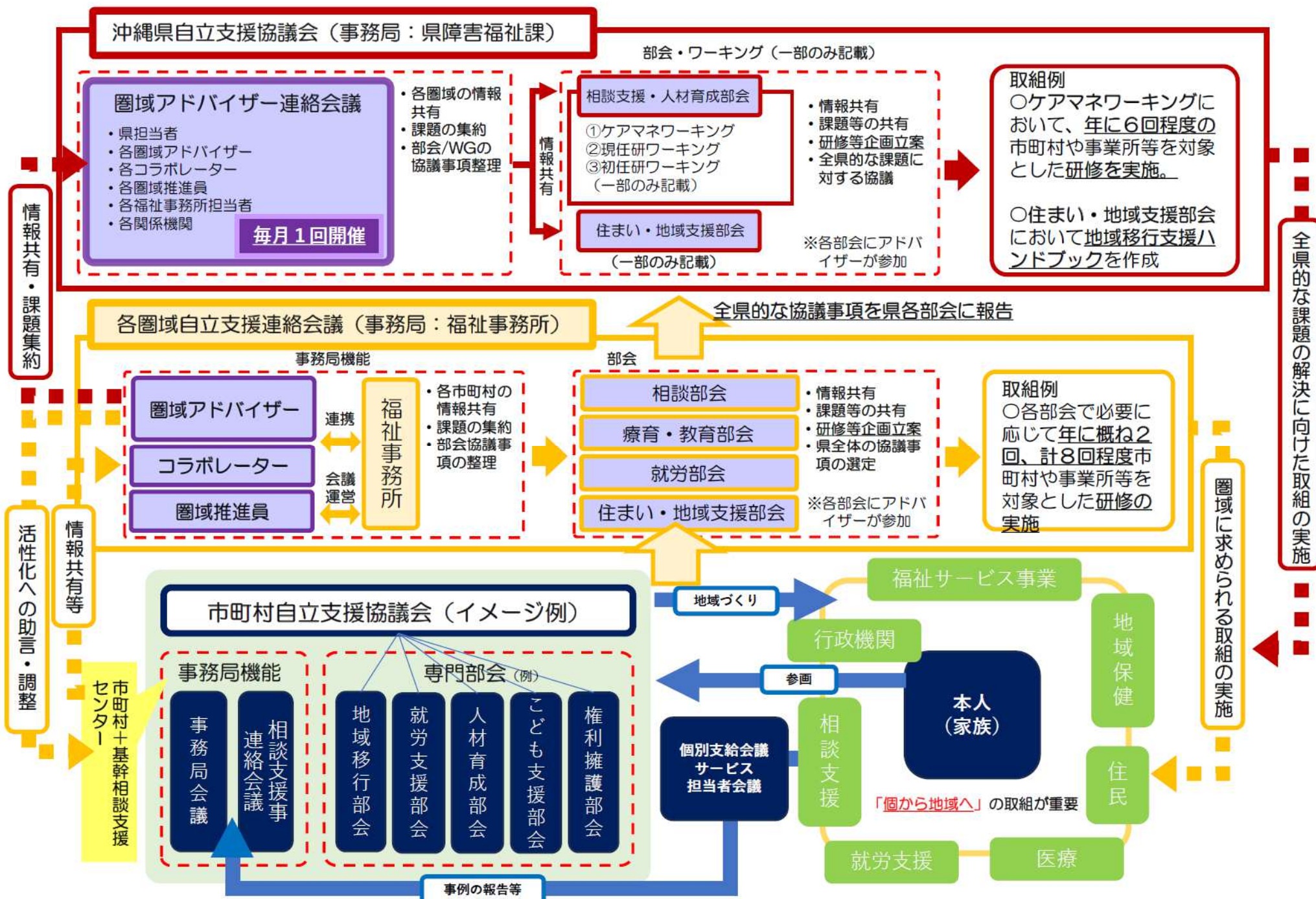
（地域生活支援事業）

## 市町村自立支援協議会

（障害者総合支援法89の3①）

# 自立支援協議会の活性化におけるアドバイザー等の役割

R7.6.26 障害福祉課



自立支援協議会は、地域の関係者が集まり、個別の相談支援の事例を通じて明らかになった本人・家族・地域の課題を共有し、その課題を踏まえて地域のサービス基盤の整備を着実に進めていく役割を担っている。

# 【事例 5】 新潟県

## ○地域のネットワークを活かした福祉圏域を単位とした持続的な支援体制の再構築

- ・県自立支援協議会に専門アドバイザー等が参加する「圏域部会（連絡調整会議）」を設置、市町村自立支援協議会との接続機能を担う。
- ・基幹相談支援センターの設置の進展を踏まえ、令和4年度から市町村の要請に基づく派遣型専門アドバイザーへ変更。
- ・専門アドバイザーが築いてきた地域のネットワークを活かし、基幹相談支援センター、市町村職員、専門アドバイザーとの連携による地域づくりを圏域単位で主体的に推進していく体制を再構築。

### 管内市町村の状況

#### ■市町村数：30

- ・基幹相談支援センター  
16市町村に設置
- ・地域生活支援拠点等  
24市町村に整備
- ・市町村自立支援協議会  
30市町村に設置

### 新潟県自立支援協議会

#### ■設置開始年：平成18年

#### ■運営（事務局体制）：新潟県障害福祉課

#### ■概要・特徴：

- ・県自立支援協議会の**担当者会議**において、圏域の課題を抽出、共有し本会につなげる。

#### <部会の構成>

- ・**圏域部会（連絡調整会議）**、精神障害者支援体制構築部会、就労支援部会、療育支援部会、権利擁護部会、研修企画WG

#### <市町村協議会との連携>

- ・県自立支援協議会と福祉圏域内の市町村自立支援協議会の接続口として、県内7圏域に、**連絡調整会議**（本会議と複数の部会で構成）を設置している。

### 市町村支援のポイント

これまで作り上げてきた専門アドバイザーと地域のネットワークを活かし、**福祉圏域を単位とした安定的・持続的な支援体制**の再構築を進めている。

### アドバイザー

- ・派遣型：24名配置（登録制：相談支援体制整備、発達障害者地域支援体制整備、障害児等療育支援体制整備、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築、権利擁護体制整備、強度行動障害支援体制整備、リハビリテーション支援体制整備の7部門）
- ・基幹相談支援センターの設置が地域で進んでいなかった時代は、県内の7つの圏域に専門アドバイザーを配置（平成19年度～）していたが、地域に相談支援の中核を担う基幹相談支援センターの設置が進んできたことから、令和4年度からアドバイザー登録制とし、市町村の要請に応じて派遣する派遣型へ切り替えた。
- ・専門アドバイザーは、圏域の連絡調整会議や相談支援部会等に参加し、基幹や拠点と連携し、相談支援体制に係る課題に取り組む。

# 【新潟県】アドバイザー制度の見直しによる市町村支援

|         |                                                                                                                |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 連絡調整会議、市町村                                                                                                     |
| 支援のきっかけ | ・地域に相談支援の中核を担う基幹相談支援センターの設置が進んできたのを踏まえ、これまで専門アドバイザーが築いてきた地域のネットワークを活かした地域づくりを圏域単位で主体的に推進していくための体制を再構築する必要があった。 |

|                                                                                   | アドバイザー制度                                                                                                                                                                                  | 下越圏域の取組事例                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| H19年度<br>～R3年度                                                                    | <p>■配置型専門アドバイザー（圏域センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・療育部門（～R3年度）</li> <li>・相談支援部門（～R3年度）</li> <li>・地域移行部門（～R3年度）</li> </ul> <p>※専門アドバイザーは、20名配置（7圏域合計）</p>                 | <p>○市町村障害者基幹相談支援センター：新発田市（R2年4月設置）、胎内市（R3年4月設置）</p> <p>＜下越圏域障害者地域生活支援連絡調整会議＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局会議、4部会（療育部会、地域移行支援部会、相談支援部会、事業所部会）、就労支援連絡会議などで構成</li> </ul>                                                             |
|  |                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                     |
| R4年度～                                                                             | <p>■派遣型専門アドバイザー</p> <p>※配置型専門アドバイザー（圏域センター）廃止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7部門の専門アドバイザーを本庁で登録。地域の実状に応じて、相談支援拠点が調整し派遣</li> </ul> <p>※配置型アドバイザーは、派遣型に移行、新たに適任者を選出し、24名体制</p> | <p>○障害者基幹相談支援センター：村上市（R4年4月設置）</p> <p>＜下越圏域障害者地域生活支援連絡調整会議＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に基幹相談支援センターの設置が進みつつあることを踏まえて、部会を3つ（相談支援部会、療養部会、にも包括部会）に集約するなど、組織を再編</li> <li>・「相談支援部会」を中心に専門アドバイザー、市町村、基幹、拠点等が連携して取り組む体制と機運を醸成</li> </ul> |

|                      |                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取組の工夫点・<br>今後に向けての取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡調整会議は、市町村自立支援協議会の課題を洗い出し、圏域単位で情報を共有する。さらに圏域の課題は、県自立支援協議会の圏域部会で共有される。</li> <li>・圏域、市町村によって取組に差がある。市町村の文化、今まで積み重ねてきた圏域の歴史を尊重したうえで、各圏域の下地を活かし、主体的な取組を支援する専門アドバイザー制度の構築をめざす。</li> </ul> |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

# 【新潟県】基幹相談支援センターの設置等に向けた市町村支援

|         |                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 全30市町村                                                                                                                                                                                                                              |
| 支援のきっかけ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹相談支援センターの設置効果、設置のための行程や方法が分からず、設置に踏み切れない市町村があった。</li> <li>・地域生活支援拠点等の整備の効果、整備のための行程や方法が分からず、整備に踏み切れない市町村があった。</li> <li>・基幹相談支援センター及び地域生活支援拠点等の設置・整備後の検証や評価、改善に向けた取組を進める必要があった。</li> </ul> |

## 都道府県の取組

|       |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| R6年度～ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度から、基幹相談支援センターと地域生活支援拠点等の設置・整備促進に向けた市町村担当者会議を実施している。</li> <li>・市町村、圏域によって状態は様々であることから、国が行っている全国ブロック会議だけではなく、新潟県単独の取組として、新潟県内の好事例を収集、共有し、基幹の設置や地域生活支援拠点等の整備促進の参考情報を提供し、市町村の体制の維持・強化を図っている。</li> </ul> |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 県の取組

## 市町村の取組

|       |                                                                                                                                                                                           |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| R6年度～ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹相談支援センター及び地域生活支援拠点等の設置・整備促進に向けた市町村担当者会議を実施し、県内の取組の好事例の共有（令和6年度）</li> <li>・下越圏域において、職員の資質向上やネットワークの強化を目的として、他県から講師を招聘し、研修を実施（令和8年度予定）</li> </ul> |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 支援による効果・変化

市町村を対象に県独自の研修の場（市町村担当者会議における県内好事例の共有）を設けることで、各市町村の現状のふり返りや他自治体との情報共有につながった。

## 取組の工夫点・今後に向けての取組

- ・基幹相談支援センターと市町村（自立支援協議会）が連携して市町村ごとの強みや地域課題等を把握し、課題解決に向けて取り組むとともに、圏域単位でも情報共有しお互いをサポートしながら、市町村の単位を超えた広域的な体制整備を進めていくことに期待する。
- ・基幹相談支援センターや地域生活支援拠点等の設置状況及び人口規模に配慮したグループ分けを行った上で、意見交換会を実施した。

# 【新潟県】（自立支援）協議会の活性化に向けた市町村支援

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援対象    | 下越圏域障害者地域生活支援連絡調整会議（新発田市、村上市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村）                                                                                                                                                                                                                          |
| 支援のきっかけ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザーの個人的ネットワークや意欲に依存する形ではなく、組織として安定的、持続的に同様の連携やネットワーク体制が維持され、より効果的に地域づくりを推進できる体制を構築する必要があった。</li> <li>・連絡調整会議設置要綱の作成や研修企画や実施方法を県が基幹相談支援センターや委託相談と協働で作成するプロセスをきっかけに、各基幹相談支援センター職員、各市町村職員や専門アドバイザーとの連携の仕組みづくりに取り組んだ。</li> </ul> |

## 都道府県の取組

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| R 4 年度 | <p>＜連絡調整会の設置要綱等の作成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡調整会議の事務局である新発田地域振興局健康福祉環境部地域福祉課は、一般的なひな形の提供ではなく、基幹相談支援センターと丁寧協議する中で設置要綱等を作成</li> </ul> <p>＜ネットワーク構築、事業デザイン＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク作りや事業デザインについての枠組み作りに協力</li> <li>・特に研修や会議の内容整理について、基幹相談支援センター、地域生活支援拠点等、地域の関係者の話を聞きながら設計</li> </ul> |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 下越圏域

- ・ 6 市町村（3 市 1 町 2 村）
- ・ 圏域人口：約 188,000 人
- ・ 新潟県新発田地域振興局、新潟県村上地域振興局

## 県の取組

## 下越圏域の取組

|                |                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                 |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| R 4 年 4 月<br>～ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要綱や通知作成等の行政事務に関する支援（地域福祉課）</li> <li>・ ネットワークづくりと事業デザイン（研修、会議の内容整理等）に関する支援（地域保健課）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連絡調整会議の「相談支援部会」において検討、体系的に作成</li> <li>・ 地域課題の整理、共有やそれに基づいた研修、会議内容の発案</li> <li>・ 下越フォーラム等のイベント実施によるネットワークの強化</li> </ul> |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 取組の工夫点・今後に向けての取組

- ・ 連絡調整会議の再編プロセスを通じて、各市町村職員や各基幹相談支援センター職員、専門アドバイザーの連携の仕組み作りを推進
- ・ 下越圏域の取組を参考に他圏域に横展開していくことを検討

## 支援による効果・変化

要綱作りや、会議の運営、研修企画等の県振興局の伴走的な支援が地域と県による協働の取組として理解されており、円滑な取組につながっている。

こうした支援のプロセスを通して、属人的な取組に依らない仕組みとしての相談支援体制の重要性の理解が浸透している。

# 令和7年度 新潟県自立支援協議会の体制

## 資料 1

### 新潟県自立支援協議会

(平成18年12月18日設置)

#### 【協議事項】

- 相談支援体制の整備に関する事
- 社会資源の開発・改善に関する事
- 相談支援従事者の人材確保・養成に関する事
- 県障害福祉計画に関する事

#### 担当者会議

- ・地域振興局(地域福祉課)
- ・中央福祉相談センター
- ・はまぐみ小児療育センター
- ・精神保健福祉センター
- ・医療的ケア児支援センター

地域振興局、  
相談支援拠点  
等、障害福祉  
課で地域課題  
の確認、共有

発達障害者支援体制整備検討委員会  
高次脳機能障害支援拠点運営委員会  
難聴児早期支援等体制整備推進協議会

#### 【協議事項】

- 専門的分野における支援方策の検討

事務局・障害福祉課

事務局・障害福祉課

事務局・障害福祉課

### 圏域部会 (連絡調整会議)

(平成20年4月1日設置)

※ 連絡調整会議は平成19年度に  
順次設置

#### 【協議事項】

- 相談支援事業の実施状況  
(市町村協議会・障害者地域  
生活支援体制整備事業)
- 圏域のネットワーク構築に関  
すること
- 圏域の社会資源の開発に関  
すること

事務局:地域振興局

### 精神障害者支援 体制構築部会

(平成20年4月1日設置)

(令和2年4月1日名称変更)

#### 【協議事項】

- 精神障害にも対応した地域  
包括ケアシステムの構築事業  
の実績確認
- 事業の効果に関する検討

事務局:障害福祉課

### 就労支援部会

(平成20年12月19日設置)

#### 【協議事項】

- 就労支援の推進
- 障害者就業・生活支援セン  
ター(7箇所)を中心としたネッ  
ワーク構築
- 就労に関する課題検討

事務局:障害福祉課

### 療育支援部会

(平成26年3月19日設置)

#### 【協議事項】

- 療育支援体制の整備に関  
すること
- 障害児(医療的ケア児を  
含む。)の療育に関する課題  
検討

事務局:障害福祉課

### 権利擁護部会

(平成27年12月25日設置)

#### 【協議事項】

- 障害者虐待防止対策及  
び権利擁護に関する事
- 障害者差別解消法に関  
すること

事務局:障害福祉課

### 研修企画 ワーキング グループ

(平成22年4月1日設置)

#### 【協議事項】

- 相談支援従事者研修  
に関する事
- サービス管理責任者研  
修に関する事

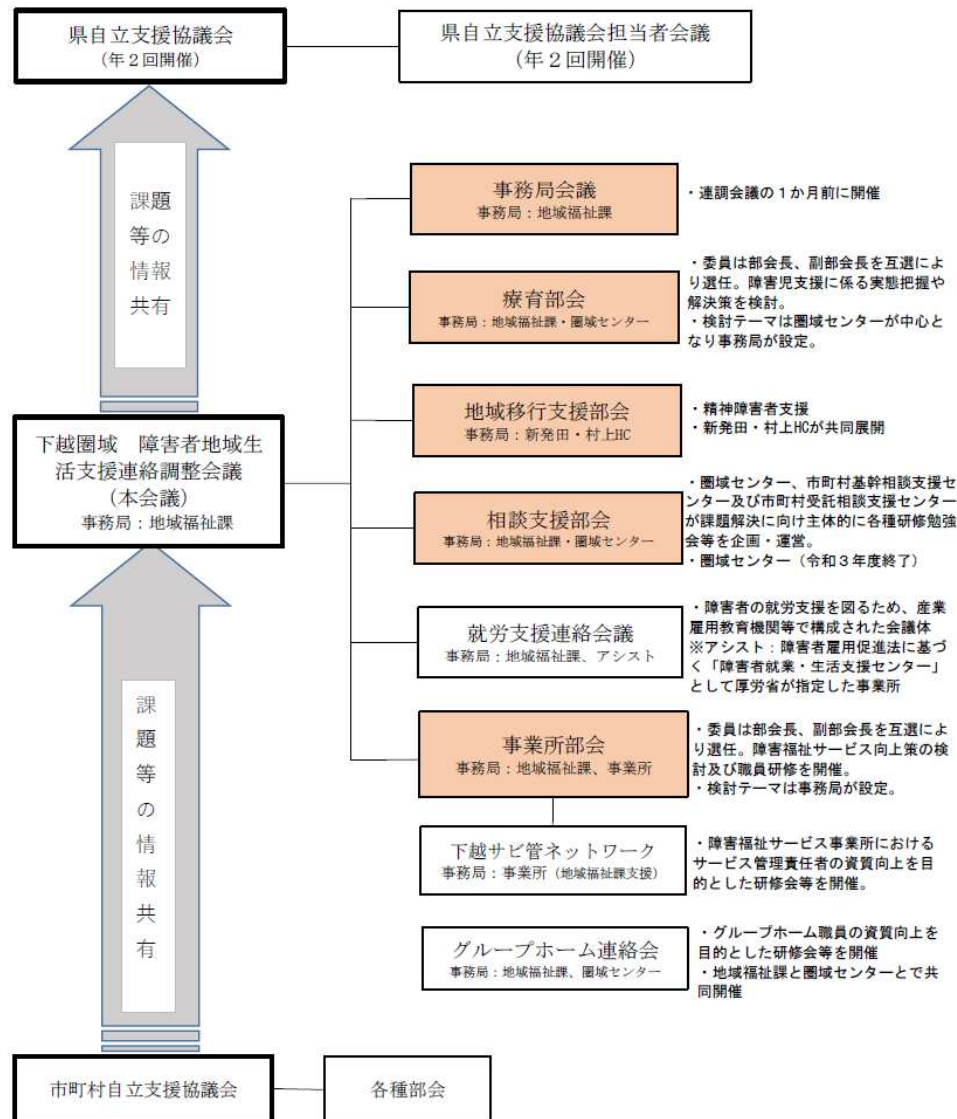
事務局:中央福祉相談センター  
(一社)新潟県相談支援専門員協会

# 下越圏域障害者地域生活支援連絡調整会議運営体制

平成19年度～令和3年度

○配置型アドバイザー（圏域センター）が廃止  
療育部門（緑風園（～R1年度））、相談支援部門（はまなす（～R3年度））

○市町村障害者基幹相談支援センター：新発田市（R2年4月設置）、胎内市（R3年4月設置）



令和4年度以降の体制

派遣型アドバイザーへ  
三部門（療育・地域移行・相談支援）のアドバイザーを地域の実状に応じて本庁主導で派遣

○障害者基幹相談支援センター：村上市（R4年4月設置）

